

令和6年度 授業改善推進プラン 体育科

①学習状況の分析と課題（昨年度の改善策の分析も含む）

1 年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	運動経験の差が大きい。熱中症対策で、校庭使用が不可になるということもあり、全般的に体を動かす経験が不足している。 友達の良い動きに気付いても、自分の動きに生かすことができない。振り返りで、自分ができていることとできていないことの把握が難しい児童がいる。 順番やきまりを守れなかったり、自分の思いを優先して活動してしまったりする児童もいる。きまりを守って誰とでも仲良く運動する姿勢を養いたい。
2 年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	全体的に運動経験が乏しく、ボールなど用具の操作の経験が少ない。友達の良い動きを見つけることはできるが、具体的に伝えられない児童もいる。振り返りでは、自分の気持ちを書くことが多い。 自分の思いを優先したり、勝敗を受け入れられなかったりする児童もいる。
3 年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	運動経験や身体の発達の差が大きく、全員一律の指導では技能向上が図りにくい。用具の操作はポイントを伝えと、少しずつ改善した。泳力は、潜ることに抵抗がある児童が一部いるが、多くの児童がけのびの基礎を習得できた。 友達の動きの良いところを見付け、伝えることができる。自分の課題を見つれたり、課題解決に向けて考えたことを他者に伝えたりすることは難しさを感じる。 きまりを守りながら、意欲的に活動する児童が多い。友達と教え合いながら自分の課題に取り組む姿勢を養いたい。
4 年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	運動経験や技能の差が大きい。運動のポイントやコツをこちらから提示することで少しずつ改善が見られた。 自分の課題を見付けることができるが、その課題に合った練習や課題を解決していく手立てを見付けることは難しい。また、考えたことを友達に分かりやすく伝えることにも課題が残る。 楽しそうに活動をする児童は多いが、友達の考えを認めたり、話を聞いたりすることには課題が残る。また、苦手な運動にも粘り強く努力する態度を養いたい。
5 年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	スモールステップでの指導により、どの児童も技能の向上はある。ただ、一人一人が技能ポイントやコツを把握しきれていない場面がある。得意不得意のはっきりする運動では、個別指導が必要である。技能面での言葉かけが増えてきて、学びに活気が生まれてきた。その一方、賞賛などの言葉掛けが少ないので、励まし合い、高め合う声掛けができるよう、支援していく。 学習カードを使い、学習内容を振り返らせることで運動に意欲的に取り組んでいる。集団の中で、前向きな声掛けに課題があるので、互いに学び合う態度を育てていく。
6 年	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	主運動につながる動きを多く提示して、段階的に技能の向上を図ることができた。今後は、協働的に学ぶこと、その上で個に応じた指導ができるようにしていきたい。 体の使い方や動きのスムーズさを言葉で表現することが難しい。教師から具体的で筋の通った言葉がけをしていくことで友達同士発信し合えるようにしたい。また学習カードでねらいに対する考えを表現できるように指導していく。 用具の準備、片付け、すすんで学びに向かう姿勢はよく見られる。今後、一層協力して取り組める態度を育てていく。

②授業改善策

- | | |
|-----|---|
| 1 年 | <ul style="list-style-type: none">・発達段階に合わせた場や用具を用意することで、身体の動かし方、道具の使い方が分かるようにする。活動時間を確保し、基本的な動きを身に付けることができるようにする。・動きのポイントを示す動画や模範を示し、児童が良い動きを意識して取り組めるようにする。自分の動きの良さや課題を見つけられるように、振り返りカード等を継続して活用する。・児童同士が互いの良い姿を伝え合い、運動の良さ、楽しさを感じられるように場や環境の工夫をする。 |
| 2 年 | <ul style="list-style-type: none">・主運動につながる運動をスモールステップに分けて行い、発達段階に合わせた用具や運動を選定し、スモールステップで基本的な動き方や用具の使い方を行う。様々な運動遊びに取り組み、多様な運動経験を積ませようとする。・良い動きをしている児童に、教師が率先して具体的に良い所を伝える。また、児童が友達の良い動きを見てその場で伝えられるよう促し、振り返りで友達の良い動きを発表する時間を設ける。・教師が積極的に言葉掛けしたり場を工夫したりすることで、児童が前向きに運動やゲームを楽しめるようにする。良い学習姿勢については、全体に共有するようにする。 |
| 3 年 | <ul style="list-style-type: none">・主運動につながる動きを準備運動に取り入れ、児童が運動の基本となる動きを身に付けられるようにする。・技能レベルや課題に応じて場を設定し、個別に声かけや指導を行う。・自分の課題を見付けられるように、動きのポイントを示す掲示物やワークシートを提示する。また、タブレット端末を活用し、自分の動きを手本と比べられるようにする。・「チームで作戦を立てる→ゲームで試す→さらに話し合う」を繰り返し行わせ、目標達成に向けた課題解決の練習を積み重ねる。 |
| 4 年 | <ul style="list-style-type: none">・技能のポイントを児童に提示したり、スモールステップで運動に取り組めるように場を工夫したりしていく。・学習カードや掲示物を用いて自分の課題を見付けさせたり、誰もが楽しく運動に取り組むためにルールや簡単な作戦を選択させたりできるようにする。また、共有タイムを各授業で設け、児童同士が気付いたコツやポイントなどを全体で共有できるようにする。・児童ができたことを称賛し、達成感を味わわせる。学習カードなどで、友達のいいところを見付け、振り返る。勝敗に関わらず、次に生かそうとする前向きな姿勢を養う。 |
| 5 年 | <ul style="list-style-type: none">・技能ポイントの例示や学習カード（オクリンク等）の活用で、できたという達成感を味わわせる。・個人やグループでの言葉かけを通して、自分や友達のよさを伝え、技能の向上に結び付ける。また、「学びのロードマップ」などの表を作成することで、児童が見通しをもって学習し、学級・学年内で共有できるようにする。・友達の考えや取組を認め、互いに運動の楽しさや喜びを味わえるようにする。 |
| 6 年 | <ul style="list-style-type: none">・単元の導入では、各運動領域の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができるように、ICT機器や学習カードを活用して、動き方やポイントを理解させる。・競技の特性や基本のルールを理解し、楽しく取り組むことができるようになった時、どの児童もすすんで取り組めるように、活動を工夫していく。そのために、その時間に取り組むめあてや課題を明確にし、技能ポイントの例示や学習カードの活用、グループでの話し合いなどの具体的な学習方法を考え、実践する。 |